

農家調査に協力を

県が毎年行っている農家調査が2月1日現在で実施される。この調査は農家の実態を知り県行政に反映させる資料づくりがねらいで、税の資料にできない規定で保護されている。なお同時に全世帯の耐久消費財調査も行いが、性格は同じであり調査員が巡回するの協力。

住宅改良資金の受付けはじまる

42年度第三回目的の住宅改良資金受付けが東由利・玉米両農協窓口ではじまっている。

これは住宅金融公庫融資による貸付で、自分が住む住宅の増築・改築・修繕など工事費の七割以内10万円から35万円まで貸りられる。

受付けの締切は2月20日。貸付金の利率は年6分。10年以内の償還となっている。

第6回定例村議会

41年度決算を承認

滞納繰越分をも完納へ

研究と配意を要望

- 12月18日招集の村議会は、別称「決算村議会」と呼ばれるように、昭和四十一年度村一般会計および特別会計の決算認定につき審査するのが主題であった。
- その結果、一般会計の決算総額は、歳入が一億八千三百七十七万六千円、歳出、一億七千五百九十九万四千円。差し引き、七百七十八万二千円を翌四十二年度に繰越した。
- また特別会計国民健康保険事業では、歳入三千六百五十六万五千円。そのうち剰余金百五十一万九千円を翌年度に繰越し、原案千円。そのうち認定した。
- 以下、総務委員長鎌石伊佐武郎氏の審査報告と決算のあらましを見てみよう。



鎌石氏

委員長報告 決算審査は総務委員会に付託され、内容につき当局の説明を聴取しながら、

ら各関係常任委員との連合審査を進めたところ適正妥当と認めた。ただしその中で、いまだ一段の研究と配意がなされたことがあつたので、つけ加えて報告とする。

▽歳入の問題点 △ 村税の現年度分は完納であるが、これは毎年問題視されることであり早期に解決のめちを見出すように。

▽歳入の採石料に 関連して茂沢口、大場台村有地からの採石は、許可し

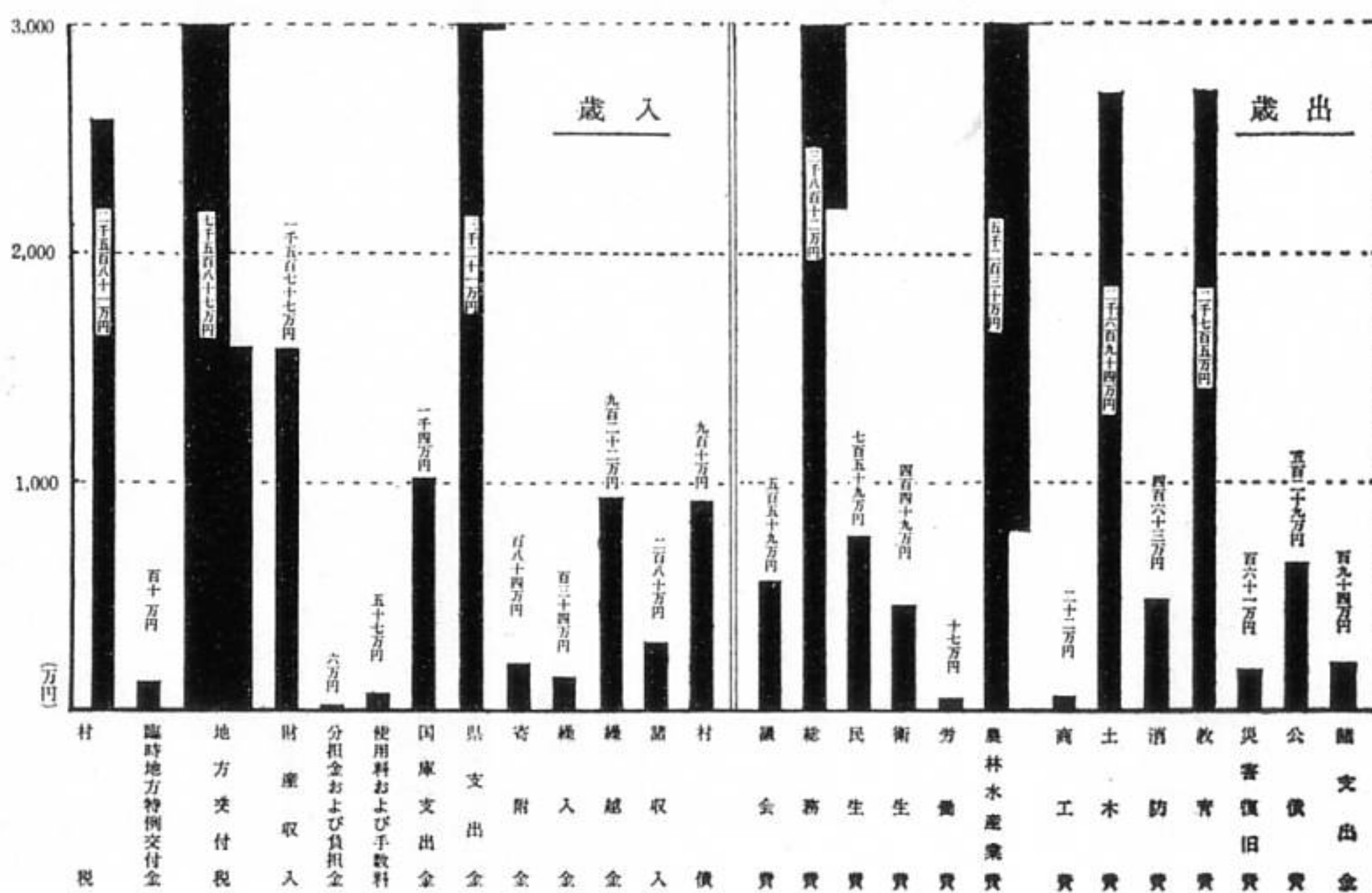
ないにかかわらず続けているので危険性もあり措置をのぞむ。

▽歳入の△ △ 財産管理の中で、最近農業構造改善事業の実施などにともなうて、村有地を利用させているが使用権を明らかにした契約のてい結をはかるよう。

▽教育費は内容上予算執行に苦心のあとがうかがわれるが年度内に数回の予算補正をしたにもかかわらず、予備費充用、費用流用が多い。経理上認められているとは言え、予算の重要性をみだりにしない配慮を希望したい。

道路維持費で砂利の購入が年間約三千立方メートルに達するが、適確な検収を要望。

41年度一般会計決算



東由利村報

No. 127 1968・2・1

発行 秋田県東由利村役場 印刷 K K 本間印刷所
毎月1日発行(1部8円) 昭和42年7月21日第3種郵便物認可



消防の使命に努力ちかう
新春をかざる出初式

1月6日昭和43年の新春をかざる本村消防団出初式が、老万小学校々庭に、二百八十名の英姿が集って行われた。式は国旗掲げの場につづき、佐々木団長から団員三百五十名うち欠席七十名との人員報告があり、村長から訓辞として、「わが国では、消防団のみが全国的に組織され、行動力をもつ唯一の民間団体であり村においては村民から深い信頼の念をよせられている。また、出かせぎによる減員の問題は、いまの社会情勢のもとでは、いかんともしたいが各分団で工夫をこらして、消防本来の使命に遺憾のないよう努力をなす。」などのほか、式に参加した婦人消防隊・クラブや少年消防クラブの方々に、慣れない任務へのい

農集電話架設で九七〇台

役場・新情勢に対処へ

関係者の努力が実り農村集団自動電話四四四台が27日ごろ開通をめぐして架設工事はいまだ急ピッチ。

この電話は、ダイヤル式自動電話で村ではいわばニューフェイス。

小松忠亮氏
助役を退任



小松忠亮氏

小松氏が永年の村助役を一月十四日かきりで任期満了退任した。

電話番号帳募集

商工会

商工会では、村内電話番号帳を定費(二五〇円)三〇〇円)で頒布する計画をすすめている。希望者は5日まで必要部数をハガキに書いて同会へ申しこまれたいとのこと。(ハガキ以外はおことわり) また番号帳は、あいうえお順部別に編集、この番号帳



遠距離で通学が困難な子どもたちに、寄宿舎を開設して玉米中学校を訪ねてみよう。

この冬の同校寄宿舎は1月21日から開設し3月9日まで終る期間七週間に達するものである。舎費は若干の燃料代と副食

施設点描

寄宿舎では納豆飯に人気

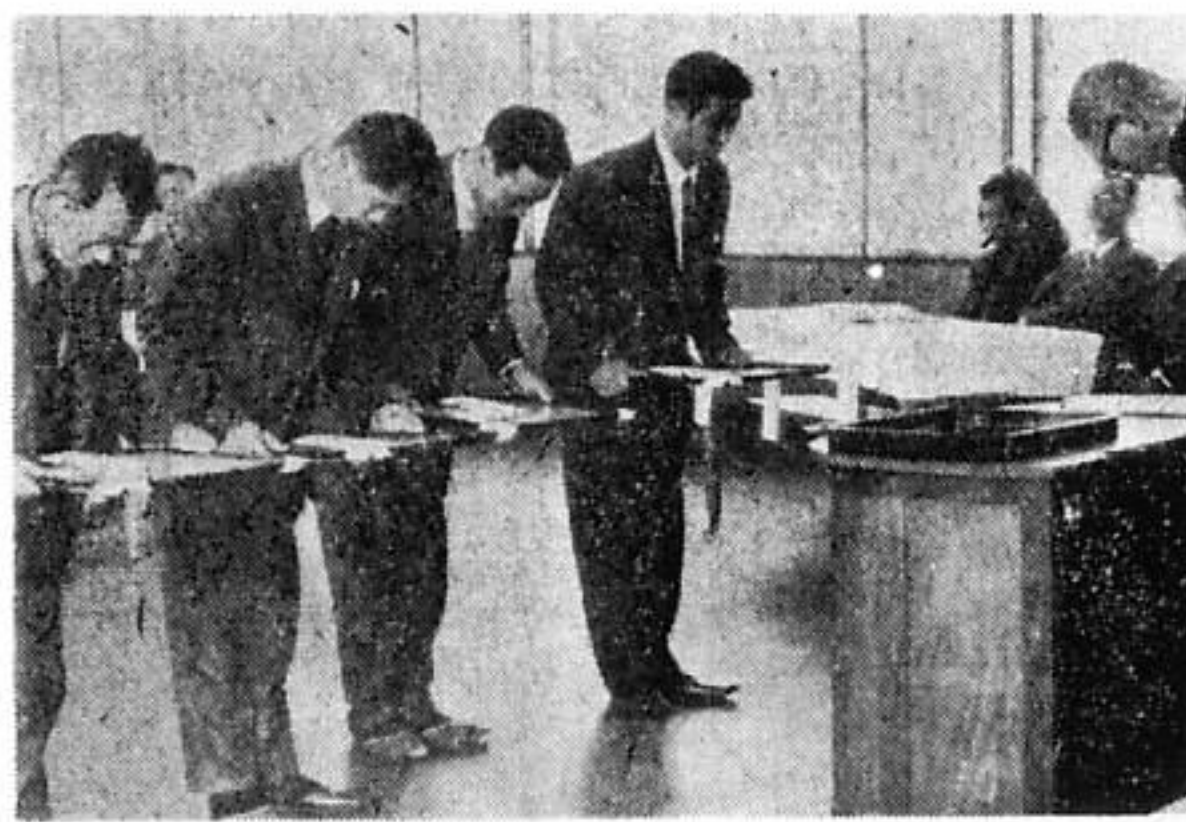
ここに入舎している子どもたちは須郷七、大吹川三、奥新沢二、深山・善徳・舟打場各一の計十五名(男八、女七)で当番にあたった男子は三〇分早起きして薪はこび通路の除雪。女子は炊事のおばさんの助手に

【寄宿舎で自習にはげむ子どもたち。】

多収穫競争・特別賞に五万円

増産への意欲かりたてる

正月五日、昭和四十二年産水稲の多収穫競争授賞式が役場に於いて、各代表者と由利農林事務所長・本庄農業改良普及所長・東由利、玉米両農協長・議会の各代表者等が出席した。



状が授与された。多収穫競争授賞式は、式は、村長式辞・授賞者表彰・審査員・来賓祝辞・授賞者の体験発表とすすみ新たな増産への意欲をかりたてた。

斜陽産業どこ吹く風

県の七五〇〇〇集団は、賞状に並行して、本村でも多収穫競争を実施したが、算には狂いを生じさせた。即ち、二十九万円の九十五万円にふくらんだことである。当初、特別賞と見たのが八集団に、努力賞と見たのが八集団と期待以上の喜びの成果であった。この豊作は天候に幸いしたと、永年の努力が実をむすんだものと感している。一時、稲作は斜陽産業との論を耳にした時期もあったが、

に恵まれぬかも知れないが、レベルダウンがない努力をしつづけていく。

集団研究でレベルアップ

審査講評

審査委員長中村普及員から要旨をつぎのような講評があった。競争会は初のころみであったが史上最高の豊作年にふさわしい記録がたてられた。審査は、参加集団に審査は場を選定し一〇平方坪(三坪)の坪刈りにより一〇〇坪当り収量を算定基準にした。審査委員一同慎重審査の結果、Aブロックでは六六〇〇、Bブロック六六〇〇、Cブロック五四〇〇以上の成績を上げた十二集団に特別賞、八集団を努力賞に決定した。今回の参加集団の品種は、本村の六五割を占めるヨネシロが大部分で品種統一の点に問題はなかった。反面、栽培様式・施肥法・管理など集団での検討の要を痛感した。昨年の増収を今後不動にする技術を確認するために、①地力の増強対策と②独善的な技術から集団・地域協同の場を活用し、一円の技術水準

下郷中学校二部で優勝

鳥海山系選手に一日の長

第11回本庄市由利郡中学校スキー大会は、1月13日本村大平スキー場に熱心な地元五百余名の観客を呼んで開かれ、参加一〇校の選手たちは、日ごろの腕前を白銀におどらせた。競技の焦点は、技術的に一日の長がある鳥海山系選手に、地元選手がどう肉迫するか、など興味がつきなかった。



腕前あがった珠算競技大会

本村商工会主催の第一回珠算競技大会が1月7日児童八十四名が参加して玉米小学校で開かれた。児童たちはこの日にそなえて大場留二郎先生からみっちり

を考えた、いろいろ工夫してやるようです。こうして見えない所で自分のため村のために、よくする努力が続けられている。が、どこの仕事場を見ても年配の男と婦人労働者が多く見られます。裏をかえせば若い人たちが都会に出て行き、あるいは村にいても



希望もてる心の糧

須郷田 柴 田 浩

出かせぎの是非を論ずる人が一時より少なくなつた。ともかく出かせぎ収入が農家の経済に、うるおいを与えていることは事実だ。こうした反面季節的に村内の製材所や土産業などの雑役に働く人も、年々ともな多くなつてきている。はげしい消費競争と戦うための一つの手段だと思

も真剣で子どもの教育のこゝと買物の話、例えばゴム長一足でも品・値段・はき心地と、細かきことまで話し合っている。とてもわれわれ家の仕事だけの者などは、びびりするようなつまらない話です。もちろん雇主も従業員の生活向上

地味な仕事に関心をよせていない結果ではないだろうか。村の後継者たる若人が、村の存続を希うならば、いづれでも東京、大阪へと入の途を求めていよう。山中のこの村を人間の住



む村にするためには、山資源の開発にとまなういろいろな仕事を意欲的に進めなければならぬと思う。そして、こうした地味な仕事を大成させるためには年配者の経験と、若いエネルギーが一体となる必要があると思う。若い人たちの育つた時代感からか、使命感と

を高める方向に意欲を見出すべきと思う。

また、来賓諸氏から要旨つぎのような祝辞があった。

野呂邦雄氏(由利農林事務所長) 私は東北の生れたが由利郡は米づくりの先進地と聞かされていたものだ。

しかしこれは二十三年二十五年頃までの話で、三十年頃には追いつかれ、三十九年頃には脱落している。往時を再現するためにがんばらう。

鈴木如水氏(本庄農業改良普及所長) 栄光のかけの努力に敬意を表したい。

天候にいかにか調和した稲作であったが、こんどの成果になった。集団での積極性・計画性・協調性に今後をのぞみたい。

小松慎一氏(議会議長) 村の農家で売渡米五十俵以上が八百戸を数える現状から推して、稲作を基本にした農業に力を入れるべきで、さらに技術の練まをはかりたい。

阿部直一郎氏(村農会長) 果の優勝者への賞金は二百万円だが、例え一〇名出ても二千万円になつてもよいと知事は語っている。村でも激励を続けるべきだと思ふ。

小松常太郎氏(玉米農協長) 本村は幸い豊作の喜びにひたつたが、照るも照つたり百三日というひどい干害の地もある。たし水害に見舞われたところもある。

出品田は基盤整備地
出品田は四十一年に基盤整備をした二〇〇の田二枚と一八〇一枚の五十八坪である。出品田は整地工程がよかったので地方が安定しており稲の育成にむらがない。しかし田んぼが広いことは地力が一定しておらず、施肥の面で、従来の元肥を主にした方式を追肥を主に転換して稲が一様に育成するよう留意した。ややもすれば窒素過多になりがちである。こうして二年を経た三十五年の秋、玉米農協が行う土壌検査の選定地に当部地の数カ所が入ったのをきっかけに土壌検査と機械測量を農協課長にきじの指導を受けて一筆ごとに五年の歳月を費して図面ともに完成させた。これが土壌質を色調りにした一冊の本とあわせて稲作技術の向上へとつながり、四十一年度の県主催七五〇〇多収競争にむけて苗代・本田の両面にわたる指導が、初年度は失格、再度の挑戦もまたその域に達しえなかった。しかし、村主催競争では授賞の栄に浴し、これまでのチームワークのよろしさが実をむすんだものと信じている。



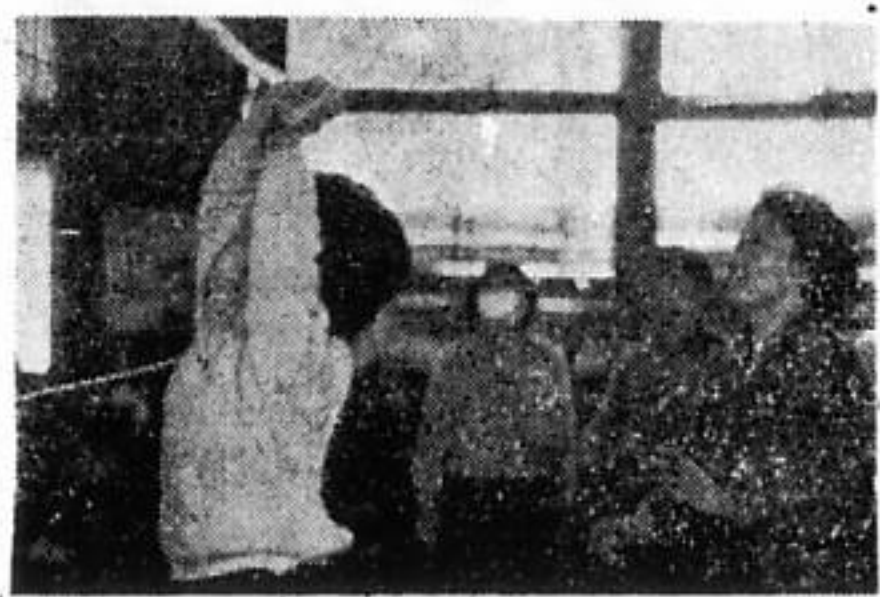
チームワークが原動力

袖山農事組合 鈴木 盛

なろう。出席者の多数は一七五日が平均的。冬が入るものの一年の半分は休んでいるので所得を合理的にあげる方向はきかせよう。嫁がよい、経営簿記を

蔵で若夫婦の家庭バレーボール

1月20日公民館蔵地区委員会主催の家庭バレーボール大会が九チームが参加して蔵小学校で開かれた。チームは男四・女四の八人制で三・四組の若夫婦が柱にかためている。だから失点してもあつた。そればかりか、目顔でサインを送りあうむつまじさ。成績は、蔵Aチームが優勝、公民館長杯を蔵が贈られた。



下郷分校生徒募集
本庄高校下郷分校では、きょう一日から普通科二〇名、被服科二〇名の生徒募集を受けている。

葉たばこ売渡実績
本村葉たばこ耕作組合では、四十二年産葉たばこの売渡し実績を発表した。これにより耕作世帯百二十九戸、一世帯当りの耕作面積一・一五坪で平均十一万八千円の売渡額となつていく。



人々の生活

公衆による役場職員に遠藤信一(法内小倉)を採用。十一月一日付で経済課産係に配置した。